

HSK N P O 法人「文福」ニュース



NO.266

冒頭の一言

(6)

この間用事のついでに、秋ヶ島の空港スポーツ緑地のゲートボール広場に行ってきました。なぜかという、期間限定 10 月いっぱいまでの間、障害のある子もない子も楽しめるインクルーシブ遊具が設置されている公園があるという北日本新聞の記事を読んだからです。上半身を支える器具のついたブランコや車いすのまま利用できる複合遊具。座ったり、寝そべった状態で遊べる回転遊具もあります。こういった遊び場は、インクルーシブ公園と呼ばれ全国的に注目されているらしいです。

普通の遊具のある公園は、障害のある子にとって使えない遊具ばかりです。色々な子供たちが一緒に使える公園がたくさん出来て欲しいものです。紹介した公園の遊具は無くなりますが、県に対してどんな子も楽しく一緒に使える遊具や公園を増やしてほしいという意見を届けて下さい。もう 11 月で少し寒くなるかもしれませんが、公園や街中を散歩してみてください。タイミングがずれた最新ニュースでした。

冒頭の一言に書きましたインクルーシブ公園について、アンケート調査を行っています。興味があるとか意見がある方は、富山県空港スポーツ緑地管理事務所
電話番号 076-429-7129 に問い合わせせてみて下さい。

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	熊本判決 河上千鶴子 … 2-3
オンライン飲み会報告 … 4-5	「昔じゃあるまいし」八木勝自 … 6-7
Penko … 8-9	今後の予定 … 10-11
	ありがとうコーナー … 12

工
の
不
下
毎
月
一
回
一
、
一
、
三
、
五
、
八
、
一
〇
、
一
三
、
一
五
、
一
八
、
二
十
、
二
三
、
二
五
、
二
八
日
（
第
三
種
郵
便
物
承
認
）
発
行

この文書は、鹿児島県の「共に歩む会」からの依頼で書いたものです。

熊本判決から 20 年が経ち思うこと

河上千鶴子（アパッチ）

私が、富山でハンセン病問題を知り、関わり始めた頃に熊本判決が出ました。あれから、20 年が経ったのですね。早いようでもあり、長かったようにも思います。

私が最初に知り合った当事者の人は、草津にある栗生楽泉園におられた藤田三四郎さんと笹雄二さんでした。それから藤田さんとのお付き合いが始まりました。その後知り合ったのは、富山で、ハンセン病市民学会が開かれた時に、お会いしたのが鹿児島の星塚敬愛園におられる、玉城しげさんや上野正子さんでした。中でも玉城しげさんとは、すごく親しみを覚えて、私の第二のお母さんとしてお付き合いをさせてもらっていました。しげさんも正子さんも富山に 2、3 回来てもらいました。

また、お付き合いの中で個人的に、何回も、しげさんや正子さんに会いに行き、関係を深めていきました。正子さんは、お土産に、と沖縄のお菓子、サーターアンダーギを沢山揚げてくださって、富山に持って帰り、皆で食べました。

しげさんは秋になると人権週間で、中学校や高校に呼ばれて講演に行かれていました。私も何回か一緒に付いて行った事があります。藤田さんも同じようにしておられました。元患者さんの口から過酷な経験談を聞く事は滅多にできない事だだと思いますので、生徒さんたちにとってはいい機会だと思います。しかし、年々数少ない語り部の人達も高齢になって亡くなって逝かれました。正子さんは中でも若いので、まだ健在だと思いますが、私が、最後に正子さんの所に行った時、映画の「あん」の役作りのために、樹木希林さんが正子さんの所に来て、手の形とか、動きを見て行った、という話を聞きました。その時は、誰か知らなくて後でわかった、という話が印象的でした。

そんな中で、菊池事件の再審請求があり、家族訴訟がありました。今もなお、社会の偏見・差別が強く残っており、実名を出せない状況が続いています。

私は、NPO 法人文福という団体にいます。障害者が地域社会で当たり

前に生きていく事が出来るように、と介護・介助派遣事業や福祉と人権の学習会、レクリエーションなどをしております。重度訪問介護従業者研修を年に2回行っています。その中で、学習会や研修会で一人でも多くの人に、ハンセン病問題を正しく知って理解してもらうために、映画「あん」や啓発啓蒙のDVD上映会、鹿児島で市民学会があった時に販売されていた紙芝居を観てもらっています。研修を受講した人のレポートを読むと、ほとんどの人がハンセン病問題について知らなかったと書いてあります。

新型コロナウイルスが流行って来た時に、昔のハンセン病が出た時と同じような人々の対応があったという話にびっくりしました。感染者の家に石を投げる、村八分にするなどして、親が自殺したという。これでは、時代錯誤ではないか、昔と何もかわっていない、判決から20年の月日が経ち、ハンセン病問題の事を、少しは学んだ人もいるのに、なぜ、感染者やその家族、また医療従事者に対して偏見や差別的対応しかできないのだろうか、強く思い、悲しさも感じました。

それで、昨年暮れに文福の学習会で、一冊の本を取り上げてみました。『病魔という悪の物語——チフスのメアリー』という本です。20世紀初頭アメリカニューヨークでのこと、アイルランド系移民である料理人メアリー・マローンが無症状の腸チフス保菌者として、25年間亡くなるまで隔離されたことをめぐる物語です。

この本を読んだ時に新型コロナ問題と類似していることに衝撃を受けました。メアリーの場合と同じく、感染しても無症状の人もいるし。どこまで、隔離が必要なのか、隔離だけにたよるような対策に問題があるのではないかと。ハンセン病の場合は、完治したにも関わらず、何十年もの間、療養所に隔離されて来た事にも思いをはせました。学習会では、主に隔離の問題についてグループで討論しました。

新型コロナウイルスに対して抱く予測不能なことに対する不安や恐怖心から、私たちは偏見や差別的対応と、隔離の道に傾きかける問題を持っているような気がします。「チフスのメアリー」やハンセン病問題と共通点があると、思っています。障害者も被害者という視点だけではなく、加害者になりうる、ということの肝に銘じる必要を感じました。

これからも、いろいろな問題が起きて来ると思いますが、ハンセン病問題で学んできたことを生かして、差別に敏感でありたいと思っています。

第 1 3 回オンライン飲み会報告

毎月第三土曜日に「オンライン飲み会」を行っていますが、8月・9月は諸事情により行う事ができませんでした。

ここで7月に行った内容を報告します。

テーマは、「ミュージックポートレート」で10年以上前にNHKで放映されており「人生」と「音楽」について語り合う番組でした。この番組をほとんどの参加者はわかりませんでした。

そこで、話しやすいようにテーマを5つ上げて、参加者に思い入れの強い曲を語ってもらいました。

テーマの内容は、①初めてお金を出して買った曲 ②好きなアニメソング ③初めて衝撃を受けた曲 ④自分がつらいときに聴きたくなる曲 ⑤人生の最後に聴きたい曲をそれぞれ聞きました。

それぞれに思い思いの曲をBGMにエピソードを話してくれました。

フォークソングやバラエティ番組から生まれたユニットやトシちゃんなどたくさん出てきました。それなりに盛り上がったかな。

この原稿を作っている者が途中までの参加だったため、最後まで様子がわからず感想がこんな感じになってしまいました。(汗)

それぞれを簡単に。

①については、オメガドライブや結婚しようよ、乾杯などやはり？古い曲が多かったかな。参加者の年代が想像できてしまうかもしれません。

②については、ガッチャマンや鬼滅の刃、セーラームーン、デビルマンなど曲のタイトルではなく、アニメの題名が羅列されていきました。

③についてはマライアキャリーのハイトーンボイスは衝撃的だったと。

④については、辛いときに音楽は聴かないって人や、敢えて明るい曲を聴くという人たちに分かれました。

⑤については、このテーマが自分としては一番印象深かったなと思います。

それぞれの「思い出の曲」が挙げられていきました。成人式の時に聞いたキロロの「冬の歌」だったり、デイビットバーンなどなど。ただ自分として驚きつつもどこか納得できたのが、「クラシックを聴く」ということ。ドヴォルザークの第9の第4やベートーベンなどが挙がりました。ドヴォ

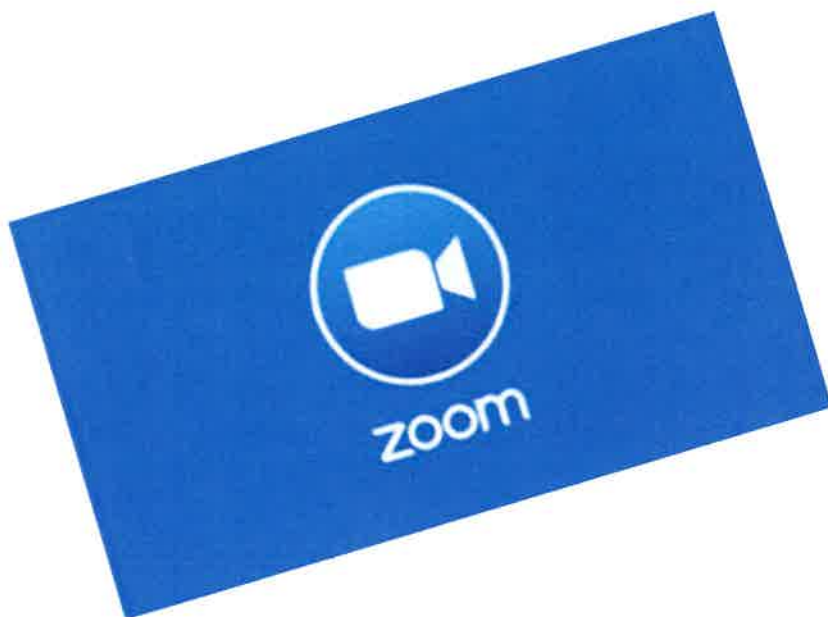
ルザークの曲を聴いた直後の自分の感想は、「壮大だ」とメモに書いてありました。自分はクラシックをまともに聞いた事がないんですが、それらの曲を聴きつつ、エピソードを聞いていると何故か納得できまして、これからクラシックも聴いてみようかなど思ったりもしました。

最近、夢宙人メンバーのスケジュールがなかなか合わず、飲み会ができてない状態です。大変申し訳ありません。

また、できるようになりましたらお知らせしたいと思います。

イベントはZoomのアプリを使用しています。PC、タブレット、スマホなどでアプリをダウンロードしていただき、アドレスにアクセスしてもらえれば参加できます。

また夢宙人メンバーとLINEで繋がっている方は直接アドレスを送らせていただきます。決まり次第アドレスをアップしていきます。



「昔じゃあるまいし」

八木勝自

障害者閉じ込め虐待疑い

伊豆大島 入所施設以前も報告漏れ

伊豆大島(東京都大島町)にある知的障害者の入所施設「大島恵の園」で、複数の職員が入所者を長時間部屋に閉じ込めたり、暴言を

浴びせたりしていたことが3日、関係者や運営法人への取材で分かった。「数年前からあった」と話している職員もあり、町は虐待に

当たるとみて調査している。施設は、都内を中心に25カ所で福祉施設を運営する社会福祉法人「武蔵野会」

(東京都)が運営。大島恵の園では、入所者間の暴行や骨折事故などを都に報告していなかったことが2018〜19年に明らかになり、都から改善指導を受けていた。同会の高橋信夫理事長は「今回のことは重く受け止めている。支援の在り方を総合的に改善したい」と話

している。法人などによると、職員6〜7人が関わっており、現場のリーダー格に当たる女性主任も含まれる。部屋の扉を外からいすでふさいだり鍵を掛けたりしていた。車いすに長時間ベルトで固定する、侮辱的な言葉を使うなどの行為もあった。入所者約10人が被害を受けていたとみられる。

暴力で入所者骨折隠蔽か

神奈川の職員カートぶつける

一部の入所者をほぼ終日、錠錠した個室に閉じ込めている実態が明らかになった神奈川県立の知的障害者施設「中井やまゆり園」(同県中井町)で、2年前に職員が入所者に暴力を振

るって骨折させたのに、事故として隠蔽した疑いのあることが26日、複数の職員への取材で分かった。同園は「事実関係を確認したい」としている。職員らによると、201

9年7月、施設内の床に横になっていた20代の男性入所者に対し、男性職員が「邪魔だ、どけ」と言って、洗濯物などを運ぶカートを肩に強ぐぶつけた。入所者が後日、医療機関で診察を受

けると、鎖骨が折れていた。カートをぶつける様子を目撃した職員もいたが、園は「寝転がっていた入所者を、他の入所者が踏んだことが原因と推測される」と、事故扱いにして処理したという。問題の職員は19年11月に別の入所者を踏みつけるなどの虐待をしたとして、今年1月に減給処分を受け、その後異動した。

2021年9月27日
北日本新聞

2021年10月4日
北日本新聞

前のページの新聞記事は、北日本新聞朝刊の 9 月 27 日と 10 月 4 日に載っていた障害者入所施設での神奈川県と東京都の伊豆大島で起きた施設職員の障害者に対する虐待事件を報道したものです。内容は障害者を個室にカギなどをかけて、閉じこめたりして、暴言を吐いたり、職員が入所者の障害者に暴行を振るったり、洗濯物を運ぶカートが男性職員が入所者の障害者に「邪魔だ、どけ」と言ってわざとカートをぶつけて鎖骨を折らせたりしたというもので、その他の職員も見ていて事故などを装って隠ぺいしたというもので、県立の障害者施設のあるまじき行為だと思います。

日本で第二次世界大戦の戦争中は家族による障害者虐待も多かったし、戦後の 1960 年代・70 年代・80 年代も私は脳性麻痺の全国団体である「青い芝の会」に入っていた為、施設の障害者虐待は聞いたりしていましたが、このような報道はこの頃あまりなく、社会では障害者を含めた人権や「共生社会」が叫ばれたり、強いて少しは障害者の状況は良くなったのかなという面もありましたが、やはりそうではなかったし、まして新聞報道の記事は、両方とも県立障害者施設であり、このようなことが何故起こるのかと言うと、やはり障害者施設は障害者が隔離されている一面があり、私は同じような障害者施設にいた者として、沸々と腹立たしく思えてきました。私は障害者の自立と社会参加の為に障害者施設は廃止し、今の障害者も単なる地域での住居化をするべきだと思います、吉本隆明という当時の思想家で様々な本や講演会などを行っていたと同じ名前の視覚障害者と「それを為す為には 200 年から 300 年かかるけど一緒に頑張っていこう」と言っていたものです。

話を少し脱線しましたが、2 つの新聞記事を県立の施設で起こったことを他の新聞記事では確か神奈川のことだと思いますが、暴行やカートを疑った県は調査をしましたが、けれど「暴行はなかった」という結果になったけれど、2 回目の調査で市の職員が皆で事件を隠ぺいしたとわかる当たり前といえば当たり前だけれど、2 回目の調査が真実を賞賛してくれたことに感謝です。



Penko のおひとりさま 珍道中!! (Part57)

最近の近況ですが、お盆は実家で過ごし、戻ってくる頃にはコロナのステージ3になり、職場に復帰したのもつかの間、まん延防止重点地域が適用され、解除までの1カ月ちょっと在宅勤務になりました。この頃通勤途中で嫌なことが続き、ほっとしたのが正直な気持ちでした。9月の中秋の名月は家の玄関や窓から見えずに残念でした。職場復帰してからは今のところ通勤時の嫌なことは起きておらず、気持ち悪いくらいに公共交通の運転手さんが優しいです。朝はほぼ毎日バスの座席が事前にたたくてあり、嬉しいです。

さて、最近はいろんな50周年をよく見聞きします。新御三家（野口五郎・西城秀樹・郷ひろみ）も今年、来年とデビュー50周年を迎えられ、五郎さんとひろみさんは歌番組に限らず様々なバラエティー番組によく出演されていて、NHKのサンドウィッチマンのお風呂の番組にそれぞれ2週続けて出ておられたのには驚きました。先日、NHKBSでも秀樹さんの特番が放映されていました。3時間以上あってまだ見れてないけど、受信料払ってよかったなあと思いました。

他にアニメの「ルパン三世」も最初の放映が50年前ということで、ホームページでは50周年記念サイトがあります。ニュースが発行される頃は新しいシリーズが富山でも始まっているはず。声優さんも最初のルパンの声の人が亡くなられて、ものまねをやっていた栗田貫一さんになり、その他の人達も高齢などの理由で替わられたりしてて、（五右衛門と銭形警部の声の方々もその後亡くされました。）唯一50年前からずっと次元の声をやっ

ておられた方もとうとう替わられました。テレビシリーズでは長時間のものと30分ものがあり、30分ものはパート5まで放映され、パート2の時は子供にもわかるように、ギャグ要素が取り入れられ、ルパンと銭形警部のやり取りがすごくおもしろかったことを子供心に覚えています。今見てもおもしろいです。全部で170近くの話があります。この原稿を作っているときに、ファボーレで2週間の限定で映画「カリオストロの城」が公開されていて、時間が合えば見に行きたいと思っています。

他に50年を超えているといえば、カップヌードル。ふたあけてお湯いれて3分待つ。当時は画期的だなあと思いました。ちょっと興味のあるカップ麺を食べてみるけれど、やっぱりカップヌードルに行き着いてしまいます。

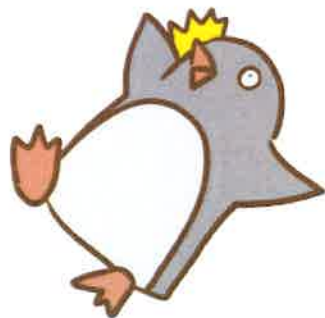
他に思いつくのはテレビの「笑点」「サザエさん」「きょうの料理」「3分クッキング」など。

「笑点」と「サザエさん」は平日に向かっていくのを実感します。

「サザエさん」を見ていると母親を思い出します。サザエさんのほがらかさが母親とだぶります。ちなみにサザエさん、タラちゃん、イクラちゃんの声の人は80歳を超えています。

仕事から帰ってきたら大抵「きょうの料理」を見えています。後藤アナウンサー（男性）のダジャレや親父ギャグが炸裂！？しています。

自分も実は50を超えまして、なんだか心も体もスベっている今日この頃です。





◆今後の予定◆

このコーナーでは、基本的に文福や他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

◎サンフォルテみらい塾

100年人生の好転術 - 専業主婦から転換した異色のキャリア人生 -

会場参加とWeb視聴（Zoom／ライブ配信のみ）のハイブリット方式で開催します。

開催日時：12月11日（土）14：00～15：30

会場：富山県民共生センター「サンフォルテ」

募集定員：会場参加100名、オンライン参加100名（申込先着順）

講師：薄井 シンシア さん

（「LOF Hotel Management」カンントリーマネージャー）

対象：県内在住の男女

費用：無料

何歳からでも、どんな状況からでも人生は開ける！

どの世代にも刺さるシンシアさんの考え方に触れて元気をもらいましょう。

【プロフィール】

17年間の専業主婦の後、47歳で「給食のおばちゃん」から仕事復帰。

電話受付、一流ホテルを経て大手外資系企業に勤務するもコロナで状況が一変。

スーパーでレジ打ちのバイトをしながら、キャリアや生き方を模索。

今春、外資系ホテルの日本法人社長に就任。

著書『人生は、もっと自分で決めていい』（日経BP）、『専業主婦が就職するまでにやっておくべき8つのこと』、『ハーバード、イエール、プリンストン大学に合格した娘は、どう育てられたかママ・シンシアの自力のつく子育て術33』（KADOKAWA）

※申込みの際、「会場参加」または「オンライン参加（Web視聴）」のいずれかを必ずご記入ください。

※一時保育は、5か月から就学前までのお子さん対象。実費300円、先着順、定員あり。

※受講決定通知は、11月中旬から順次発送します。

◎わくわく人生セミナー

日本初の片づけヘルパーが語る親の健康を守る実家の片づけ方

日本初の片づけヘルパーとして活躍する講師が、高齢者が健康、安全に暮らせる片づけについて指南します。

開催日時：令和4年1月29日（土）13：30～15：00

講師：永井 美穂 さん

（整理収納アドバイザー／介護福祉士／片づけヘルパー）

会場：富山県民共生センター「サンフォルテ」

募集定員：50名程度（申込先着順）

対象：県内在住の男女

費用：無料

<プロフィール>

整理収納アドバイザーと介護福祉士の経験を活かし、高齢者が健康・安全に暮らせる環境づくりの実現に寄与。

日本初の片づけヘルパーとして活躍中。

著書に『親の健康を守る実家の片づけ方』がある。

インターネットよりお申込みの方は、下記の「インターネットからお申込みいただけます」のボタンよりお申込みください。

<申込締切> 申込先着順

※一時保育は、5か月から就学前までのお子さん対象。実費300円、先着順、定員あり。申込締切は、1月15日（土）厳守

※整理券は1月初旬に順次発送します。

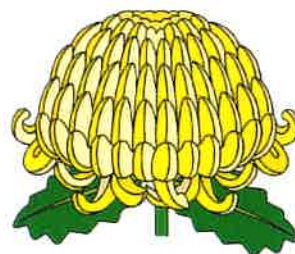
それぞれのお問い合わせ：

富山県民共生センター「サンフォルテ」

〒930-0805 富山市湊入船町6-7

TEL：076-432-4500（月曜・祝日休館）

FAX：076-432-5525



ありがとうコーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



いつもこのニュースを読んで頂き、ありがとうございます。10月1日号発刊が、コロナ禍まん延防止重点地域に富山もなり、諸事情の理由で休刊せざるを得なくなりました。本当に申し訳ありませんでした。

さて、秋になり朝晩が寒くなって来ましたね。秋といえば、味覚の秋、美味しい物でも食べて、コロナウイルスに打ち勝ちましょう。(アパッチ)

2021 年度 新規会員・継続会員

前田 位久代さま 松田 成美さま 神山 夕央さま 中山 君枝さま
金谷 美子さま 富山 正史さま 寺島 咲希さま 青木 麻衣子さま
小川 毅さま 粟多 智康さま 保坂 和哉さま

カンパ

松田 成美さま 青木 麻衣子さま 川淵 映子さま

いただきもの

鷲山 広希さま 石川 宏樹さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぷく} 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <http://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 441-6106

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。